

## 充実の2学期を目指して

校長 大谷 慎也

「名月をとってくれろと泣く子かな」(小林 一茶『おらが春』) 学校の生徒昇降口脇の掲示板には、生徒会広報委員が作成したお月見をテーマにした季節のポスターが掲げられ、残暑の厳しい中ですが、季節の移り変わりを感じさせてくれます。早いもので、2学期の始業式を迎えてから半月が過ぎようとしています。現在、新型コロナウイルス感染症や熱中症の予防に留意し、随時発出される国やさいたま市の通達や通知に従って、教育活動を展開しております。そして、校外行事と部活動の大会や発表会、コンクールに関しては、既にお知らせいたしましたとおり、年度当初の計画を中止した催しがあります。しかし、入学式や修学旅行等の学校行事は、それぞれに目標や意義があり、養われる力も大きく、重要な教育活動です。そのため、幾度もの熟議の上、延期したり、縮小したりして、可能な範囲で実施を予定しました。

さて、今月予定している体育祭や生徒会選挙も現状に応じて時間や内容、方法を検討しつつ、準備を進めております。特に体育祭については、感染症と熱中症予防とを併せながら、競技内容と実施方法を考え、プログラムを編成しました。閉会式は、各教室に学級担任と生徒がいる中で放送によって行います。恒例の生徒会企画種目を中止しました。

このような中、過日生徒会担当の教員から相談がありました。前期生徒会本部役員の作成した企画書を携えています。「提案企画 木崎中学校『アンブレラ スカイ』」「提案理由『新型コロナウイルス感染症拡大の為、今年度の生徒会活動が減ってしまった中、最後に出来ることはないかと思いました。目的として、生徒会活動の幅を広げ、生徒会員に知ってもらおうとともに木崎中生の笑顔が少しでも取り戻せればと思います。』」さらに、企画書には、材料である傘の本数や大きさ、取り付け方、配置場所、終了後の措置等が詳細に記載されています。担当教員からは、「ぜひ、実現させてください。」という強い一言。私は、質疑をしながら、安全面を最優先することをお願いし、全てを託しました。

『アンブレラ スカイ』は、ポルトガルのアゲダという都市で毎年芸術祭のイベントの一つとして行われています。7月になると、市内の建物のある街路の上空を色とりどりの傘が埋め尽くします。元々夏の日差しが強い同国も、近年の地球温暖化の影響により熱中症予防が重大な課題となっていました。2010年に当時の市長が、観光客の誘致と熱中症対策として『アンブレラ スカイ プロジェクト』を発案し、世界各所に広まっていきました。今では日本でも自治体や観光地スポットのイベントとして親しまれています。

この度の生徒による企画は、スローガン「必勝必笑～勝ち負けより価値ある体育祭を～」の体育祭を支える活動となるとともに『中学校学習指導要領』(文部科学省)にある「望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。」という学校行事の目標の達成に結び付く活動となると考えています。そして、何よりも生徒に何度も語ってきた「今年の木崎中で良かったと言えるようにしよう！地域を元気にする学校にしよう！」を実現する木崎中生自らの行動と期待しています。

私たちは、人生で最も長い2学期を経験することとなります。これからも様々な試練を受け、悩み事も絶えないことと思います。生徒が、仲間や教職員、ご家族にいつでも相談できる環境が今まで以上に重要となります。保護者、地域の皆様、改めましてご支援とご協力をお願い申し上げます。